

(様式1)

令和3年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標 将来の自立と社会参加を目指し、児童生徒一人一人の障害の特性などに応じた教育課程を通して、心身の調和のとれた発達を促し、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。				学校整理番号 特14																																																	
(2) 現状と課題 本校は知的障害がある児童生徒を対象とした小・中学部を設置する特別支援学校である。カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善、教員の専門性の向上による授業の充実、地域連携や交流及び共同学習の推進等を通じて、児童生徒個々の障害の特性に応じた学習環境を整え、指導の充実を図ることが求められている。また、感染症対策を十分に行いつつ教育活動を停滞させない「八二養新学習スタイルプロジェクト」の推進にも取り組んでいる。				学 校 名 青森県立八戸第二養護学校																																																	
(3) 重点目標 1 安心・安全な教育活動の取組 2 「生きる力」を育む教育の推進 3 保護者や地域との連携に基づく教育活動の推進 4				対象障害種別 知的																																																	
(4) 結果の公表 集計結果について、保護者に対しては紙媒体で配布、教職員に対しては電子媒体を用いて職員会議で説明、地域に対しては学校ホームページに掲載することにより周知する。				自己評価実施日 令和3年12月10日(金)																																																	
				学校関係者評価実施日 令和4年2月25日(金)																																																	
				(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 ・学校評議員 6名 【内訳】 元青森県立八戸第二養護学校校長、合資会社彩り工房代表、長坂保育園長、桂堂学園長、うみねこ学園長、本校PTA会長																																																	
<table><tr><th colspan="4">自 己 評 価</th><th colspan="2">学校関係者評価</th><th rowspan="2">(10) 次年度への課題と改善策</th></tr><tr><th>番号</th><th>(5) 評価項目</th><th>(6) 具体的方策</th><th>(7) 具体的方策による目標の達成状況</th><th>(8) 目標の達成度</th><th>(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等</th></tr><tr><td>1</td><td>授業の充実</td><td>・子供たちが自ら考える授業づくり ・「指導内容表」に基づいた系統性のある指導</td><td>・校内研究の成果物として授業改善に係るリーフレットを作成し、関係機関等に配布した。 ・外部講師による研修会を2回実施し、授業力向上と授業改善を図った。</td><td>A</td><td>・ヴァンラーレ八戸等の外部人材を活用した授業づくりや、図書室の整備推進による読書活動の充実がすばらしい。</td><td>今年度の校内研究の成果と課題を適切に検証し、次年度の校内研究テーマに迫るための方策について検討する必要があるほか、研修機会の充実を図ることが必要である。</td></tr><tr><td>2</td><td>人間関係づくりを重視した指導</td><td>・情報モラル教育、主権者教育、消費者教育、いじめ防止等、現代社会を適切に生き抜く力を育む指導 ・健康な体や命の尊さにうつつの指導</td><td>・児童生徒会役員選挙等を通じた主権者教育の充実に努めたほか、障害のある児童生徒用の教材を用いた消費者教育の推進を図った。 ・感染症予防に関する指導を通じて、健康な生活についての理解啓発を図った。</td><td>B</td><td>・コロナ禍においても交流及び共同学習が推進されていて良い。特にうみねこ塾への奉仕活動が良い。 ・肥満解消等の健康教育が効果を上げていることを評価する。</td><td>八二養新学習スタイルプロジェクトの推進により、校内における教育活動の充実を図られたが、一方で地域との連携・協働が十分であったとは言えず、コロナ禍における教育活動の充実の在り方について更に検討を進める必要がある。</td></tr><tr><td>3</td><td>教員の専門性の向上</td><td>・ICF関連図等の活用に基づく個別の指導計画等の的確な作成 ・ICTを活用した指導力・授業力の向上 ・評価指標を活用した道徳科の実践</td><td>・県の共通様式を基にして、新しい個別的教育支援計画等の作成システムを構築し、運用した。 ・学びの履歴チェックシート、道徳の評価指標等、新しく作成したツールを活用しながら改善を図った。 ・ICT通信の発行や研修会・報告会等を開催した。</td><td>A</td><td>・学びの履歴チェックシートの活用は、保護者への説明資料として効果的であると感じた。 ・食育について適切な指導がされていると感じた。</td><td>新しい様式やチェックシートの活用により、具体的な方策を講じたものの、その評価には時間が必要であり、丁寧な分析・改善を通じた継続的な取組としたい。また、ICTの活用についても、全校体制で取り組めるよう一層の組織改善を図りたい。</td></tr><tr><td>4</td><td>安全教育の推進</td><td>・安全に関する意識の高揚と実効性のある訓練の実施 ・学校における危機管理体制等の整備</td><td>・登下校時の交通整理のルールを見直し、児童生徒の安全性向上及び安全教育の充実を図った。 ・感染症対策委員会を設置し、新型コロナウイルス感染症に対する対応を迅速・適切に行った。</td><td>A</td><td>・感染症対策において、保護者に対して速やかな情報提供がされたと聞いている。適切な対応である。</td><td>感染症対策の更なる徹底を図りつつ、対策が教職員を萎縮させてしまわないよう、安心・安全な学校づくりに努めたい。</td></tr><tr><td>5</td><td>労働環境の改善</td><td>・教員間の連携分担等による効率的な業務遂行 ・勤務時間の適正化による業務改善</td><td>・会議の設定時間を見直し、教材研究等の時間を確保したほか、振替や休暇が取得しやすいようにした。 ・会議等で定期的に計画的な業務遂行を意識付けた。</td><td>B</td><td>・特になし。</td><td>教職員個々の経験と特性を生かした学校組織の編制を推進し、効率的で働きがいのある組織づくりが必要である。</td></tr></table>						自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策	番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	1	授業の充実	・子供たちが自ら考える授業づくり ・「指導内容表」に基づいた系統性のある指導	・校内研究の成果物として授業改善に係るリーフレットを作成し、関係機関等に配布した。 ・外部講師による研修会を2回実施し、授業力向上と授業改善を図った。	A	・ヴァンラーレ八戸等の外部人材を活用した授業づくりや、図書室の整備推進による読書活動の充実がすばらしい。	今年度の校内研究の成果と課題を適切に検証し、次年度の校内研究テーマに迫るための方策について検討する必要があるほか、研修機会の充実を図ることが必要である。	2	人間関係づくりを重視した指導	・情報モラル教育、主権者教育、消費者教育、いじめ防止等、現代社会を適切に生き抜く力を育む指導 ・健康な体や命の尊さにうつつの指導	・児童生徒会役員選挙等を通じた主権者教育の充実に努めたほか、障害のある児童生徒用の教材を用いた消費者教育の推進を図った。 ・感染症予防に関する指導を通じて、健康な生活についての理解啓発を図った。	B	・コロナ禍においても交流及び共同学習が推進されていて良い。特にうみねこ塾への奉仕活動が良い。 ・肥満解消等の健康教育が効果を上げていることを評価する。	八二養新学習スタイルプロジェクトの推進により、校内における教育活動の充実を図られたが、一方で地域との連携・協働が十分であったとは言えず、コロナ禍における教育活動の充実の在り方について更に検討を進める必要がある。	3	教員の専門性の向上	・ICF関連図等の活用に基づく個別の指導計画等の的確な作成 ・ICTを活用した指導力・授業力の向上 ・評価指標を活用した道徳科の実践	・県の共通様式を基にして、新しい個別的教育支援計画等の作成システムを構築し、運用した。 ・学びの履歴チェックシート、道徳の評価指標等、新しく作成したツールを活用しながら改善を図った。 ・ICT通信の発行や研修会・報告会等を開催した。	A	・学びの履歴チェックシートの活用は、保護者への説明資料として効果的であると感じた。 ・食育について適切な指導がされていると感じた。	新しい様式やチェックシートの活用により、具体的な方策を講じたものの、その評価には時間が必要であり、丁寧な分析・改善を通じた継続的な取組としたい。また、ICTの活用についても、全校体制で取り組めるよう一層の組織改善を図りたい。	4	安全教育の推進	・安全に関する意識の高揚と実効性のある訓練の実施 ・学校における危機管理体制等の整備	・登下校時の交通整理のルールを見直し、児童生徒の安全性向上及び安全教育の充実を図った。 ・感染症対策委員会を設置し、新型コロナウイルス感染症に対する対応を迅速・適切に行った。	A	・感染症対策において、保護者に対して速やかな情報提供がされたと聞いている。適切な対応である。	感染症対策の更なる徹底を図りつつ、対策が教職員を萎縮させてしまわないよう、安心・安全な学校づくりに努めたい。	5	労働環境の改善	・教員間の連携分担等による効率的な業務遂行 ・勤務時間の適正化による業務改善	・会議の設定時間を見直し、教材研究等の時間を確保したほか、振替や休暇が取得しやすいようにした。 ・会議等で定期的に計画的な業務遂行を意識付けた。	B	・特になし。	教職員個々の経験と特性を生かした学校組織の編制を推進し、効率的で働きがいのある組織づくりが必要である。
自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策																																															
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等																																																
1	授業の充実	・子供たちが自ら考える授業づくり ・「指導内容表」に基づいた系統性のある指導	・校内研究の成果物として授業改善に係るリーフレットを作成し、関係機関等に配布した。 ・外部講師による研修会を2回実施し、授業力向上と授業改善を図った。	A	・ヴァンラーレ八戸等の外部人材を活用した授業づくりや、図書室の整備推進による読書活動の充実がすばらしい。	今年度の校内研究の成果と課題を適切に検証し、次年度の校内研究テーマに迫るための方策について検討する必要があるほか、研修機会の充実を図ることが必要である。																																															
2	人間関係づくりを重視した指導	・情報モラル教育、主権者教育、消費者教育、いじめ防止等、現代社会を適切に生き抜く力を育む指導 ・健康な体や命の尊さにうつつの指導	・児童生徒会役員選挙等を通じた主権者教育の充実に努めたほか、障害のある児童生徒用の教材を用いた消費者教育の推進を図った。 ・感染症予防に関する指導を通じて、健康な生活についての理解啓発を図った。	B	・コロナ禍においても交流及び共同学習が推進されていて良い。特にうみねこ塾への奉仕活動が良い。 ・肥満解消等の健康教育が効果を上げていることを評価する。	八二養新学習スタイルプロジェクトの推進により、校内における教育活動の充実を図られたが、一方で地域との連携・協働が十分であったとは言えず、コロナ禍における教育活動の充実の在り方について更に検討を進める必要がある。																																															
3	教員の専門性の向上	・ICF関連図等の活用に基づく個別の指導計画等の的確な作成 ・ICTを活用した指導力・授業力の向上 ・評価指標を活用した道徳科の実践	・県の共通様式を基にして、新しい個別的教育支援計画等の作成システムを構築し、運用した。 ・学びの履歴チェックシート、道徳の評価指標等、新しく作成したツールを活用しながら改善を図った。 ・ICT通信の発行や研修会・報告会等を開催した。	A	・学びの履歴チェックシートの活用は、保護者への説明資料として効果的であると感じた。 ・食育について適切な指導がされていると感じた。	新しい様式やチェックシートの活用により、具体的な方策を講じたものの、その評価には時間が必要であり、丁寧な分析・改善を通じた継続的な取組としたい。また、ICTの活用についても、全校体制で取り組めるよう一層の組織改善を図りたい。																																															
4	安全教育の推進	・安全に関する意識の高揚と実効性のある訓練の実施 ・学校における危機管理体制等の整備	・登下校時の交通整理のルールを見直し、児童生徒の安全性向上及び安全教育の充実を図った。 ・感染症対策委員会を設置し、新型コロナウイルス感染症に対する対応を迅速・適切に行った。	A	・感染症対策において、保護者に対して速やかな情報提供がされたと聞いている。適切な対応である。	感染症対策の更なる徹底を図りつつ、対策が教職員を萎縮させてしまわないよう、安心・安全な学校づくりに努めたい。																																															
5	労働環境の改善	・教員間の連携分担等による効率的な業務遂行 ・勤務時間の適正化による業務改善	・会議の設定時間を見直し、教材研究等の時間を確保したほか、振替や休暇が取得しやすいようにした。 ・会議等で定期的に計画的な業務遂行を意識付けた。	B	・特になし。	教職員個々の経験と特性を生かした学校組織の編制を推進し、効率的で働きがいのある組織づくりが必要である。																																															
(11) 総括		保護者からの評価については、アンケートの回答結果からは、肯定的な回答群(「よく出来ている」及び「出来ている」)の割合、平均値とも前年度から概ね向上している。一方で、全体的な傾向は長期にわたり変化が少ないものであり、「わからない」の回答率についても同様であった。これは、調査内容や方法により回答傾向が固定化してしまっている可能性が示唆されていると考えられ、必要に応じて、項目の内容や数、質問文について見直す必要があると考えられた。また、「わからない」とした回答率の経年変化が少ないことから、今後、これまでの紙媒体配布による情報提供に加えて、学校ホームページの充実や、SNSや動画配信の活用等、学校からの新しい情報発信の在り方を模索し、積極的に進めていく必要があると考えられた。加えて、保護者や地域のニーズに即した、自由に情報交換できる場の設定についても検討していきたい。また、教職員の労働環境の改善については、業務軽減のみではなく、より適正な職員配置に加えて、専門性の向上と組織改善を通じた働きがいのある環境が必要であると考えている。その上で本校のスローガン「みんなでみんなを」の精神に則り、認め合い、助け合える組織作りに努めていきたい。																																																			